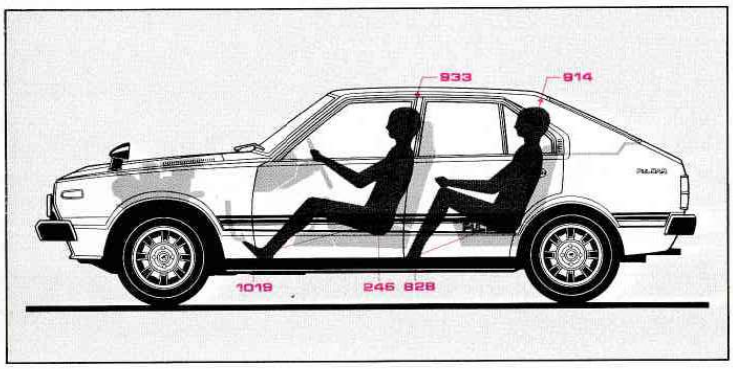
Q-16 F.F.+2ボックスは広い室内を生みだすといわれているが…

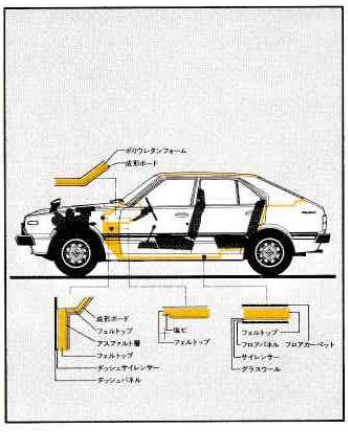
F.F.＋2ボックス。この組み合わせはさまざまのメリットを生みだします。そのなかでも最大の魅力は、ボディサイズ(投影面積)に比べ室内を広くできるということです。ここでは実際の数値を示しながら説明いたしましょう。ニッサンパルサーの外寸は、全長3940㎜×全幅1620㎜×全高1360㎜(1400cc車)とコンパクト。しかし室内有効スペースは、長さ1725㎜×幅1365㎜×高さ1105㎜。外観から想像するよりはるかに大きい室内を誇ります。しかも特に横幅を大きく取った設計。実際にお座りになると見た目以上の“ゆとり”が感じられることでしょう。さらにいまひとつデータを提示すると、実際に人が室内に座った時の有効スペースを比べる国際的なモノサシ“ルーミネスインデックス”は、なんと6580㎜。この数値はこのクラスでは特筆に価するもの。ここでもパルサーの室内の広さが証明されているでしょう。

※ルーミネスインデックス”とは……室内のゆとりをあらわすためにSAE(米国自動車技術者協会)で決めた権威ある指標。前後席のレッグルーム、ショルダールーム、ヒップルームなどを数値で表わしそれらを加算した値です。その数値が大きいほど室内にゆとりがあるとされています。いわば、クルマの居住性の良し悪しを判定する国際的モノサシですね。



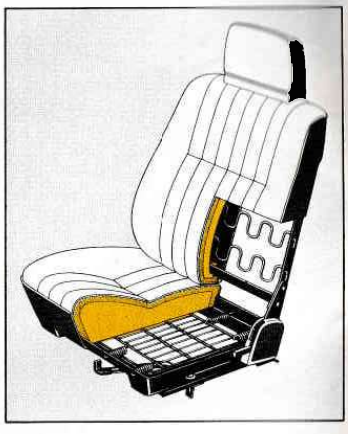
Q-17 いくら室内が広くても“音”がうるさくては魅力半減だよな

ご心配は無用。パルサーは“音のデザイン”も徹底。室内は広さを確保すると同時に、静かさも保たれています。2重、3重の遮音対策を施し騒音をシャットアウトした室内。特にダッシュパネルには、遮音効果にすぐれたハードボードとアスファルト、フェルトップが三層一体となった遮音材を採用。さらに、インストアンダートリムも装着。エンジンルームからの騒音は低減され、前席は60km/h時で64dBという静かさを実現しています。騒音が“愛の語らい”をじゃまするなんておそれはありませんよ。



Q-18 やわらかすぎても、硬すぎてもダメ！ホールド感が問題さ

クルマのシート、ソファのように柔らかでも、木の椅子のように硬くても困りものです。パルサーのフロントシートは、スプリングに振動をソフトに吸収するプルマ(すだれ)スプリングを採用。またシートバックには腰椎をしっかりと支えるバネを装着。適度なホールド感があり、長時間の運転にも背筋の疲れをやわらげてくれます。またシートはヘッドレストを必要最小限におさえたローバックタイプ。シートスライド量は180㎜。どなたにも理想の運転姿勢が得られ、快適なドライブが楽しめます。



なぜヨーロッパか。